

ぶらりわが街 宮沢界限

(34) 神社(初詣)・寺院(除夜の鐘) 参拝の作法 = 基本マナー

神さまと仏さまを同時に信仰してきた日本人。違いは？神社には神さまの神体が祀(まつ)られ、寺院には仏さまを表す仏像が安置されています。神社も寺院も聖域を境内と呼び、手水舎(てみずしゃ)や賽銭箱(さいせんばこ)など付属施設に共通する点が多くあります。

毎年、年始には初詣に出かける方が多いのでは。

まず地元の氏神様(宮沢町・「諏訪神社」)で新年の無病息災を祈願。菩提寺「阿彌陀寺」で除夜の鐘やご先祖様に一年の無事と感謝を伝えるに参拝。

細かい作法は神社・寺院や地域によって異なるが基本の手順は次の通りです。

■【神社参拝】■

神社は開放されて誰でも入れますが、あまりラフ過ぎる服装は避けるべきです。

【鳥居】一神社の門的な役割。軽く会釈(えしゃく)をし、神に敬意を表してからくぐる。

【参道】一拝殿まで参拝のための道。中央は神さまが通る場所＝「正中(せいちゆう)」とされ歩かず、なるべく左側を歩きましょう。

【手水舎】一通常、鳥居をくぐってすぐの流水所。参拝前に身を清める簡易的な楔(みそぎ)・手水を行う。水は「罪や穢(けが)れ」を洗い流すものと考えられています。

手水の作法一

- ①手水舎の前で一礼
- ②右手で柄杓(ひしゃく)をとり左手をすすぐ
- ③左手に柄杓を持ち替えて右手をすすぐ
- ④再度柄杓を持ち替え左手に水を受け、□をすすぐ
- ⑤左手をすすぐ
- ⑥最後に柄杓を伏せる形で元に戻す。

「諏訪神社」は、湧水の流出近くに「手水場」がある。

* 柄杓は無く、飲めません。

【納札所】一前年のお守り、ご神札、破魔矢などを焚(た)き上げるための治める所。「諏訪神社」の場合は、境内で若陸会が大晦日(午後3～5時)、元旦(午前0～1時)

に受付、1月中旬「どんど焼き」で焚き上げてくれます。

本殿拝礼の作法一

①鈴(鈴の音は参拝者の邪気を払う)を鳴らす。

②賽銭箱に賽銭を入れる一神へのささやかな貢物(みつぎもの)です。金銭額の多少によってご利益の差はない。

③「二拝二拍手一拝(にはいにはくしゅいっぱい)」一拝殿に向かって軽く一礼した後、深く2回頭を下げる。次に両手を合わせ、拍手を2回打ち、両手を合わせて祈る。そしてもう一度深く拝礼をしてから、後ずさりして拝殿から退く。

新年のお神札やお守り、おみくじを受けるなどは参拝が終わってから。(※寺院も御朱印やおみくじを受ける場合など同様)鳥居を出る前に改めて本殿に向き、軽く一礼をしてから帰る。

■【寺院参拝】■

【山門】一神社の鳥居と同様に門的な役割ですので、前で一礼。手水舎は、神社と同じ作法。本堂に向かう際は中央を避ける。「香炉(こうろ)」に線香を供える一うっそく1本をあげる*他人のろうそくから火をもらわない。真ん中に線香3本をとます。

本堂拝礼の作法一本尊に向かい一礼し、賽銭をそっと賽銭箱に奉納して鈴を鳴らす。姿勢を正し、両手を合わせ一礼し、静に拝みます。拍手は不要。最後に深く一礼をし、本堂を離れます。帰りも山門の前で一礼。

除夜の鐘一大晦日の夜を「年越し＝除夜」と言います。この除夜に寺院で108回つく鐘です。一説によると「四苦八苦」に由来し、「四・九・八・九」と変換。そして、「4×9+8×9」と計算すると、108になります。鐘は前の音が消えてから、参拝前(*後は戻り鐘・再参拝)につくのが作法です。

(【神社参拝】写真「宮沢町・諏訪神社」。【寺院参拝】写真「宮沢町・阿彌陀寺」)

(文・写真) 防犯宮沢支部 西山 禎一

